



No.09
MARCH 2017

校友会

会報

Yamagata
University
Alumni
Association



ご挨拶

これからの時代に向かって

ふすま同窓会会長 野村 一芳
(校友会副会長)



校友会の副会長を仰せつかっております、ふすま同窓会会長の野村一芳です。昨年の5月に長沼前会長からふすま同窓会会長を引き継ぎました。

校友会は、昨年設立10周年を迎え、11月に盛大に記念式典を举行することができました。

これもひとえに会員の皆様のご支援ご協力の賜であり感謝申し上げます。

母校山形大学には、これからも教育学問の質を高め学生の目標となる特色ある大学として、存在感を示して欲しいものです。そのためにも、学生歌にあるように夢を持ちたくましい学生を社会に送り出してもらいたいと思います。校友会は、山大の応援団として、大学と共に学生が勉学に励み将来に亘って活躍できるよう、学生支援を行ってまいります。また、校友会は大学の各学部を束ねる役割も担っております。我々同窓会も生立ちの違いから各学部同窓会毎の活動となっておりますが、少子化により学生減少が予想されるこれからは、各同窓会の横の繋がりも益々必要になってくると考えています。

ふすま同窓会は、全国唯一の旧制高等学校同窓会を引き継いだ同窓会であります。3年後には山形高等学校創立100年とな

ります。同窓会会員のほとんどが山形大学の卒業生で占められている現状ですが、寮歌で始まるふすま同窓会の伝統は今なお途絶えておりません。しかし、寮歌を歌える世代が少なくなっていく中で、良きふすまの伝統を引き継ぎ皆が集えるふすま同窓会を作つてゆくことが求められていると思います。

今年は、米国ではトランプ大統領が誕生し、ヨーロッパでは英国の離脱によるEU危機など、世界が大きく変わろうとしております。日本は、これからどのように対応していくのか厳しい状況が予想されます。一方国内では、大相撲初場所で待ちに待った稀勢の里の優勝がありました。これまでの停滞感を一気に打ち破った快挙でした。日本人力士として19年振りの横綱が誕生しました。稀勢の里は、どんな状況の中でも自分を失わず、前を向いて愚直に、できることを磨いていくことで自分の道を切り開きました。この姿は、これから世界に羽ばたく山大学生にも見習つてほしいと思います。社会に出ると色々なことがあります。楽しいこともあるでしょうが、足踏みしづらいこと悩むことも多かろうと思います。そんな時、自分を信じて努力すること、諦めないことです。稀勢の里のように、山大学生の活躍を祈ります。

校友会とは…

校友会は山形大学のすべての在学生と卒業生、役員、教職員、退職者等の会員（生涯会員10,000円）で構成され、山大応援団として山形大学や山形大学の学生等を支援する全学的な組織として平成18年12月に設立されました。

校友会設立10周年記念事業を実施

記念講演会



平成28年11月25日(金)に昭和45年山形大学文理学部を卒業され、ユニー・ファミリーマートホールディングス株式会社代表取締役社長をされている上田準二氏を講師にお迎えし、記念講演会を開催しました。講演会は、『自分の人生を通じて伝えたい「元気・勇気・夢」－ファミリーマート再建の経験に学ぶ！－』と題し、卒業生の一人として、ご自身の人生経験やファミリーマート再建の過程における失敗や成功談を通じて、後輩学生さんに「元気・勇気・夢」の熱い想いを語って

いただきました。この講演会は、基盤教育の授業「仕事の流儀－プロから学ぶ仕事のやりがい－」との共同開催として実施され、記念式典への出席者(来賓や卒業生等)はもちろん、基盤教育を受講する本学の1年生を中心に延べ360名余が上田氏の講演に熱心に聴き入っていました。

当日は、講演への聴講希望者が大変多かったため、当初予定した基盤教育棟221教室(2階)の他に同じ建物の211教室(1階)にも遠隔配信を行い同時中継するなど、大盛況での開催となりました。

参加した学生さんからは、一流企業のトップとして活躍されている大先輩から次々発せられることばに感銘し、是非、またお聴きしたいという感想が多数寄せられました。

記念講演会の資料の抜粋



元気とは？

天と地の間にあり、万物生成の根本となる
精氣
(国語辞典より)



戦略戦術は10%
90%は「戦闘力」
の発揮である



記念講演会の様子



小山学長の挨拶と講師紹介



講演する上田準二氏



講演聴講の様子1



講演聴講の様子2



講演聴講の様子3



講演聴講の様子4(遠隔配信)



質問を行う学生さん



授業担当の松坂先生と
質問に答える上田氏

しました

平成28年11月25日(金)に記念講演会、記念式典及び記念祝賀会を挙行しました。

記念式典

記念式典は、来賓、学内外関係者及び学生など約100名が出席して開催しました。

冒頭、地域教育文化学部学生有志によるファンファーレの演奏並びに山形大学大学歌及び学生歌「みどり樹に」の合唱が藤野祐一教授の指揮の下で行われました。

式典は、校友会設立10周年記念事業実施委員会委員長の大場好弘理事・副学長の開式のことばで始まり、校友会会长である小山清人学長から、「校友会のサポートが地域や世界で活躍する人材の育成に繋がるものと確信し、これからも10年先を見据えて校友会活動を活発にさせたい。」との式辞が述べられました。

次いで、山形県知事吉村美栄子様、山形市長佐藤孝弘様、株

式会社山形銀行頭取長谷川吉茂様及び山形県立山形南高等学校校長奥山雅信様よりご祝辞をいただきました。

来賓紹介のあと、学生代表として、人文学部法経政策学科2年の今野真理子さんからの祝辞があり、引き続き、設立10周年を記念して校友会シンボルネーム・愛称の募集で、優秀作品賞に選ばれた人文学部2年伊東里紗さん、地域教育文化学部3年菅野亜寿真さん及び同1年清水海斗さんの3人に小山学長から賞状と奨学金が贈呈されました。

最後に、10周年記念事業実施委員会副委員長野村一芳校友会副会長の閉式のことばで、記念式典は滞りなく終了となりました。



地域教育文化学部学生有志による
大学歌と学生歌の合唱



小山清人山形大学長の式辞



吉村美栄子山形県知事の祝辞



佐藤孝弘山形市長の祝辞



小山学長と
愛称の優秀作品賞受賞者



厳かに行われる式典



長谷川吉茂
山形銀行頭取の祝辞



奥山雅信
山形県立山形南高等学校長の祝辞

学生代表祝辞（要旨）



今野真理子さんの祝辞

校友会設立10周年誠におめでとうございます。

私は山形大学校友会からご支援をいただき、学生大使としてベトナムとラトビアへそれぞれ約2週間、渡航しました。最初は初めての海外に大きな不安を感じていましたが、たくさんの気づきと刺激で溢れた2週間の派遣は、新しいことへのチャレンジする1歩を恐れない私に変えてくれました。そして多くの世界を見て海外の楽しさ難しさを知ることが自分の将来についてより真剣に考えるきっかけになりました。

私は観光分野に興味があり、今回の派遣を通して国々の日常生活を見ることも大きな魅力を持った一つの観光なのだ

人文学部法経政策学科2年の今野真理子さんから
校友会設立10周年記念式典において祝辞をいただきました。

と気づきました。将来このような海外で気づいたことを活かした仕事をしたいと考えています。

私が海外で多くを学ぶことができたのも校友会からのご支援のおかげであり、私の他にも支援を必要としている生徒は多くいるはずです。海外へ踏み出すチャンスがすべての生徒に平等であってほしいと思います。そのためにもこのプログラムがずっと学生の学びのチャンスとなり海外へ踏み出す後押しとなるよう、今後ともご支援をよろしくお願いします。



記念祝賀会

記念祝賀会は、式典終了後に来賓、学内外関係者及び学生など約80名が出席して開催しました。

本学OBで山形交響楽団に所属する高橋智広さんと地域教育文化学部学生有志による歓迎演奏で、出席者の皆さんを温かく迎え入れていただきました。

祝賀会は、本学オリジナルの「塗り枠」に注がれた本学農学部附属やまがたフィールド科学センター（農場）で収穫した酒米を地元の酒蔵で醸造していただいた日本酒「燐樹（きらめき）」で、上野雅史莊内銀行代表取締役頭取様のご発声により声高らかに乾杯が行われ祝宴に入りました。祝宴では、内堀眞司東北エプソン（株）代表取締役社長様と後藤完司山形県商工会議所連合会副会長様にテーブルスピーチを頂戴しました。本学学

生の皆さん、来賓の方々と直接お話をできる機会にも恵まれ、終始和やかな雰囲気の中で懇談されていました。

また、懇談の中では、歓迎演奏をしてくださった高橋智広さんと地域教育文化学部学生有志によるアンコールに応えての金管楽器が奏でる音楽により、会場は一層華やかな雰囲気に包まれました。人文学部法経政策学科3年の丹羽音彩模擬裁判実行委員長からは12月開催の第44回模擬裁判「～それはしつけですか？～」について説明がありました。

最後に、長谷川利信工学部後援会会長様の万歳三唱により祝賀会を締めくくり、神戸士郎校友会副会長の御礼のことばでめでたくお開きとなりました。



山形交響楽団高橋氏（山大OB）と
地域教育文化学部学生有志による歓迎演奏



上野雅史莊内銀行頭取による
乾杯の挨拶



内堀眞司東北エプソン（株）
社長のスピーチ



後藤完司山形県商工会議所
連合会副会長のスピーチ



祝賀会の様子1



祝賀会の様子2



祝賀会の様子3



模擬裁判をPRする丹羽実行委員長



祝賀会の様子4



長谷川利信工学部
後援会会長による万歳三唱



祝賀会の様子5



神戸士郎校友会副会長による
閉会の挨拶

記念事業

校友会設立10周年を記念して講演会、式典及び祝賀会のほか、次の事業を実施しました。

1. 校友会のシンボルネーム又は愛称の募集
2. 校友会会員「卒業同窓生の集い」への支援
3. 学生による「校友会支援事業」の成果発表会（「留学体験」及び「就活体験」の成果発表会）
4. 新入生への入会記念品「学生朝食奨励券」の進呈
5. 「関西セミナー by 山形大学」の記念開催

関西セミナー by 山形大学



小山学長の挨拶

平成29年2月18日（土）に「関西セミナー by 山形大学」を初めて大阪新阪急ホテルにおいて開催しました。同セミナーでは、本学の城戸淳二教授による「最先端科学と地域活性化」の講演及び現役学生4名からの活動報告を行っていただきました。

最初に、校友会担当の大場好弘理事・副学長から開会のことばがあり、小山清人学長（校友会会长）

から故郷の和歌山県すさみ町から山形大学工学部に入学し卒業後今日までの山形大学とのつながり及び山形大学の概況として、大学の規模、世界・国内トップクラスの研究拠点、学生教育（体験型授業やグローバル化の推進）、教育改革（学部・大学院再編等）について説明がありました。

また、セミナーの後援をいただいたふすま同窓会関西支部里村義征支部長、米沢工業会関西支部佐藤和栄支部長、鶴窓会関西支部安富俊晴支部長、山形県大阪事務所渡辺亘所長及び関西山形県人会川邊直子副会長の紹介を行いました。

元気な山大生の活動報告！

本学の現役学生4名から活動報告を行っていただきました。最初に、農学部4年の佐藤裕太さんから「山形庄内から世界の農業人へ」と題し、庄内での農業を通じて海外との交流を深める、或いは地域創生のための様々な事業の展開を目指していることなどの発表がありました。次に人文学部3年の菅野智佐さんから「私はフリーペーパーサークルY-ai!の編集長！」と題し、取材を通じての様々な出会いと出会いで培った人脈による新たなチャレンジやそれらの活動（カンボジア算数教育プロジェクト）

等）について発表がありました。また、工学部4年の中川大成さんから「70億人を幸せにするエンジニアへ」と題し、在学中に経験した東日本大震災関連や海外でのボランティア活動、国外での国際交流活動などを通じて、海外での活動を目指す意気込みについて発表がありました。最後に、人文学部3年の松井天幹さんから「これぞ、学生花笠サークル四面楚歌」と題し、花笠踊りを通じての様々な経験と出会いについて及び動画による活動状況の発表がありました。



農学部4年佐藤裕太さん



人文学部3年菅野智佐さん



工学部4年中川大成さん



人文学部3年松井天幹さん

記念講演「最先端科学と地域活性化」

山形大学有機材料システムフロンティアセンター長の城戸淳二教授から、有機ELの最先端研究の講演を行っていただきました。城戸教授は、本学の代表的な研究者で「論文の引用分析による世界で影響力を持つ科学者」（トムソン・ロイター Highly Cited Researchers）に3度も選ばれるなど東大阪が生んだ発明王です。また、紫綬褒章や米国情報ディスプレイ学会「K.F.Braun賞」など多数の栄誉ある賞を受賞されています。

記念講演では、白色発光有機ELの開発、その大型化への取り組みと実践、さらに照明という新しい用途への応用、フィルムのような

ディスプレイや壁面全体が光る照明の開発などのほか、食への応用としてのドライフルーズの製作まで幅広く研究され、実用化研究のための産学官金連携やベンチャー企業の立ち上げなど、山形有機エレクトロニクスバレー構想が披露されました。更に、小中高の児童生徒に対する科学の面白さを伝える多数の企画を実施するなど、未来の科学者育成の活動を行っていることのお話もあり、講演会は大盛り上がりとなりました。



城戸淳二教授の記念講演



セミナーの様子1



セミナーの様子2



交流会の様子1



交流会の様子2

平成28年度 校友会支援事業の紹介

平成28年度校友会支援事業を紹介します。
(会報第8号・校友会設立10周年記念号に一部を掲載しています。)

就職活動支援



1



2

1. 本学OB・OGから学ぶ 業界・仕事研究セミナー

28企業から37名のOB・OGの方を講師として招聘し学生との懇談を行っていました。

2. 首都圏就職活動時の セカンドキャンパスの整備

新宿駅西口近くに無料で使えるスペースを確保しています。4月から283名が利用しました。

修学支援



1



2

1. 実践教育プログラム英語合宿

11月に留学生6名をアシスタントして迎え学生24名が参加し英語合宿を開催しました。

2. 山形美術館を活用した 学生の学習支援

博物館実習や美術関係授業の際に支払っていた入館料を山形美術館キャンパスメンバーズ制度に参画(会費納入)することにより無料で鑑賞可能になりました。

山形大学グローバル化支援



1



2

1. 大学間交流協定大学への 短期派遣留学生校友会支援事業

海外の11ヶ国13大学19名の派遣学生に支援金を贈呈しました。

2. 博士課程学生研究発表奨励事業

国内外での国際学会で発表を行う計55名の大学院生に支援金を贈呈しました。

課外活動支援



1



2

1. 各キャンパス大学祭への支援

小白川、米沢、鶴岡の各キャンパスで開催された大学祭に運営費の支援を行いました。

2. ビーチサッカー大会in庄内

小白川、米沢のキャンパスから4チーム、鶴岡キャンパスから2チームが参加し激戦を繰り広げました。終了後には、参加者全員で庄内浜のクリーン作戦を行いました。

大学・社会貢献活動支援



1

2

1. 科学で東北盛り上げ隊への支援
宮城県亘理町、石巻市及び県内市町村等での科学実験教室の開催に要する経費を支援しました。

**2. 子どものまち・いしのまき
復興支援事業**

東日本大震災で被災した石巻市で開催された「子どものまちいしのまき」の運営に参加する学生の旅費や報告書作成費を支援しました。

▶会員相互の交流支援事業

卒業生講演会を開催しました

11月12日(土)に米沢工業会と校友会との共催により小白川キャンパスで第4回山形大学卒業生講演会『活躍する山形大学卒業生～私にとっての山形大学とは？～』を開催しました。この講演会は、学部卒業或いは大学院修了の若手OB・OGをシンポジストに招き、自身のそれまでの経験を通して、在学生の皆さんに学生生活や卒業後のキャリア形成のヒントとなることを語り掛けていただきました。当日は、理工学研究科国際交流センター担当の仁科浩美准教授の進行で4名の方からプレゼンテーションを行っていただきました。在学時の経験、海外での多彩な体験や留学生の日本での生活など様々な視点からのプレゼンテーションは、在学生のこれから的学生生活の過ごし方や留学への関心度、或いは社会人として必要なスキル等の取得などを後輩学生に伝えいただき、熱気あるシンポジウムとなりました。

4名の卒業生シンポジストは、次の方々です。

菅原暢文さん(平成25年農学部生物生産学科卒)

園部 祥さん(平成27年大学院社会文化システム研究科文化システム専攻修了)

高橋洋人さん(平成26年大学院理工学研究科機械工学システム専攻修了)

パンカムタンさん(平成23年大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻修了)

プレゼンテーションの後のディスカッションタイムでは、沢山の質問が寄せられましたが、限られた時間の中で、丁寧に答えていただき、あっという間に時間が過ぎていきました。

シンポジウム終了後は、会場を移してシンポジストの皆さんを囲んで、軽食座談会を開催し、参加した学生さんは軽食を摂りながら、講演会では聞けなかった様々な体験やこれから学生生活を送るにあたっての参考となるアドバイスに耳を傾け、和やかに語り合っていました。



若手卒業生の会を開催しました

12月17日(土)にキャンパス・イノベーションセンター(東京都港区芝浦)で首都圏の若手卒業生が一堂に会し、若手卒業生の会を開催しました。当日は、会員の希望により、大学の授業をワークショップの形式で体験していただきました。講師に基盤教育院担当の松坂暢浩准教授をお迎えし、「より良い信頼関係を作るたった2つの方法」というテーマで行われ、(1)そもそも「キャリア」とは何か？(2)改めてコミュニケーションとは？(3)信頼関係を築くための「聴く」スキルの3つの課題により小グループによる演習を取り入れた形で行われました。参加者の皆さんには、終始和やかな雰囲気の中ではありましたが、講義内容は日常的にありがちな情景であり、これからの職場での人間関係、友達や周囲の人たちとのコミュニケーションを図る上で、とても役に立つのです！と感じました。



終了後には、昼食を摂りながら次年度の若手卒業生の会の持ち方等について意見交換を行い、継続して開催することが決定しました。なお、実施内容の詳細は、取りまとめ役(幹事)の2名の方が素案を作成し、校友会事務局と相談しながら準備していくことになりました。

午後からは、山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会が開催され、希望した若手卒業生も参加して、大先輩方との交流も深められました。

▶会員相互の交流支援事業

山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会を開催しました

12月17日(土)にキャンパス・イノベーションセンター(東京都港区芝浦)で「平成28年度卒業生等首都圏ネットワーク総会」を開催しました。本ネットワークは、首都圏の本学卒業生及び教職員等との連携協力を図り、山形大学の発展に貢献するために開催されているもので、東京ふすま会、地域教育文化学部同窓会東京、神奈川、川崎、千葉の各支部、米沢工業会東京、神奈川、埼玉、千葉の各支部、鶴窓会関東支部、医学部医学科蔵王会及び大学関係者など55名が出席しました。総会では、岩城功希ネットワーク会長(鶴窓会関東支部前会長)と大場好弘山形大学理事・副学長の挨拶、出席者の紹介に続き、(1)卒業生等首都圏ネットワークの事業等、(2)平成28年度山形大学OB&OGセミナー、(3)卒業生等首都圏ネットワークの次期役員の選任、(4)卒業生等首都圏ネットワークの「校友会賛助会員」へ登録などが了承され、また、(5)各同窓会支部及び校友会等の活動報告が行われました。次期役員(任期:2017.4~2年)として、会長には三俣壯一東京ふすま会会長、副会長には朝倉喰美子地域教育文化学部東京支部幹事長、船越巧子米沢工業会東京支部幹事長、眞嶋敏晴鶴窓会関東支部事務局長が、幹事として笹谷仁則東京ふすま会副会長がそれぞれ選任され、岩城功希会長は顧問に委嘱されました。



総会終了後には、根本建二医学部附属病院長による特別講演「山形大学における重粒子線がん治療プロジェクト」があり、山形大学における重粒子線がん治療プロジェクトへの取り組み状況や重粒子線によるがん治療の現状と課題が紹介されました。講演終了後、参加者による懇談会があり、卒業生同士が和気あいあいの中で行われた懇談会は盛会のうちに終了しました。

山形大学大学歌

山形大学大学歌は、平成21年に創立60周年を記念し、歌詞の募集を行い、当時地域教育文化学部4年生在中の石先麻美さんと難波千鶴さんの作品が選ばれました。作曲は山形市出身の作曲家大谷靖夫氏に依頼し、平成22年3月に本学大学歌として制定されました。

※この事業は校友会の支援により実施されました。



大学歌
ダウンロードは
こちら

大学のホームページからもダウンロードができます。

※「山形大学大学歌」と学生歌「みどり樹に」は、YouTubeでもお聴きいただくことができます。

作詞: 石先 麻美・難波 千鶴
作曲: 大谷 靖夫
編曲: 中村 康就

- 1 春風に 希望をのせて
桜の光 仰ぎ見る
若葉の緑 きらめいて
力みなぎる 若き瞳
決意を胸に 手をつなぐ
我らが学び舎 山形大学
- 2 知を深く 真理を求める
語りあかそう 集い来て
星のまたたき 想い馳せ
学びを拓く 強き瞳
己を信じ 進みゆく
我らが学び舎 山形大学
- 3 はるかなる 未来を照らし
流れる川の 絶え間なく
日々を彩る 雪模様
次代を担う 明き瞳
夢を抱いて はばたこう
我らが学び舎 山形大学

編集後記

校友会は、この度設立10年を迎ましたが、これも偏に保護者、各同窓会及びOB・OGの皆様をはじめとする関係各位のご理解とご協力により成し得たものと深く感謝申し上げる次第です。

また、昨年11月25日(金)には、校友会設立10周年記念事業として、記念講演会、記念式典及び記念祝賀会を開催ましたが、多くの方々のご賛同を得て、盛会に終えることができました。本当にありがとうございました。

校友会は、新たな10年に向けてスタートを切りました。そこで、在学生の皆さん意見を取り入れるシステムを導入し、一層充実した支援を実施すると共に、卒業生の方々ともより深く連携し、様々な情報を発信して、活発な活動を行っていきたいと考えておりますので、皆様方のご理解とご協力を賜りたいと存じます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

山形大学エンロールメント・マネジメント部
山形大学校友会事務局

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12
TEL:023(628)4867 FAX:023(628)4185
E-mail:ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈校友会ホームページ〉 <http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>